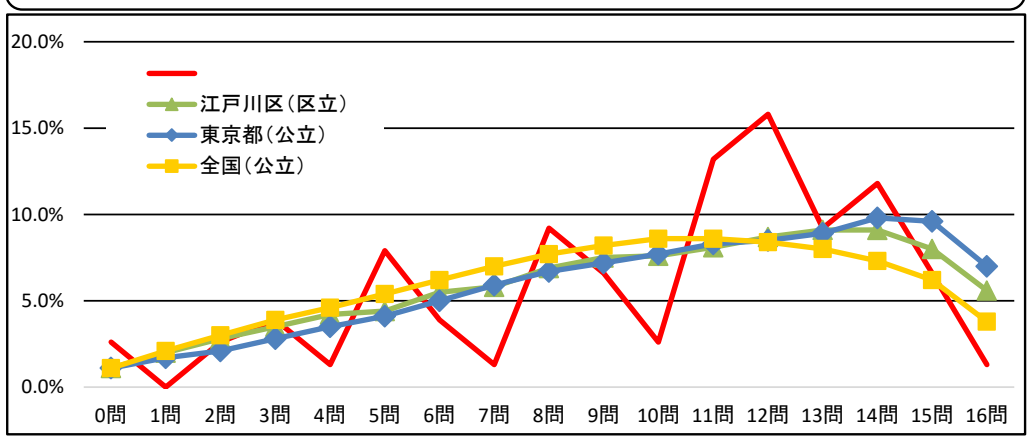
令和7年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【算数】鹿骨東小学校

正　答　数　分　布

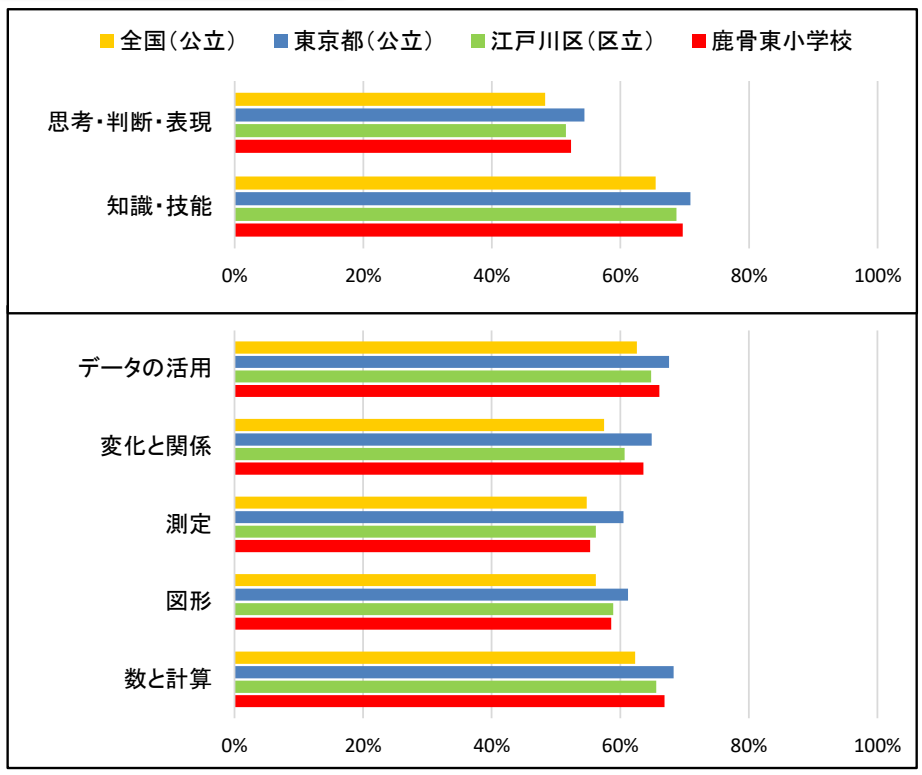
平均正答数
鹿骨東小学校：9.9問　江戸川区（区立）：9.8問
東京都（公立）：10.2問　全国（公立）：9.3問



【平均正答率の差】

鹿骨東小学校	62%
江戸川区（区立）	61%
東京都（公立）	64%
全国（公立）	58%
都との差（ポイント）	−2.0

「領域別」の結果

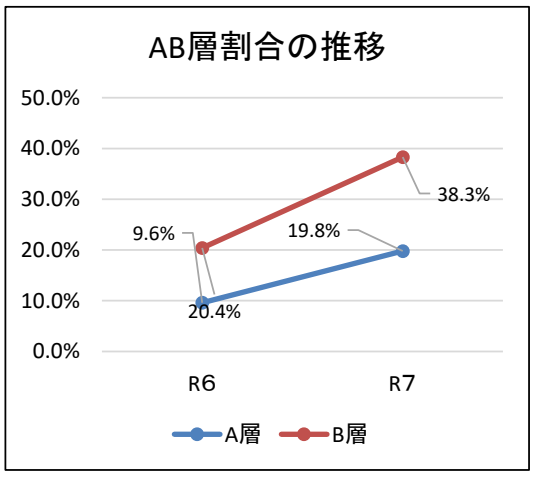


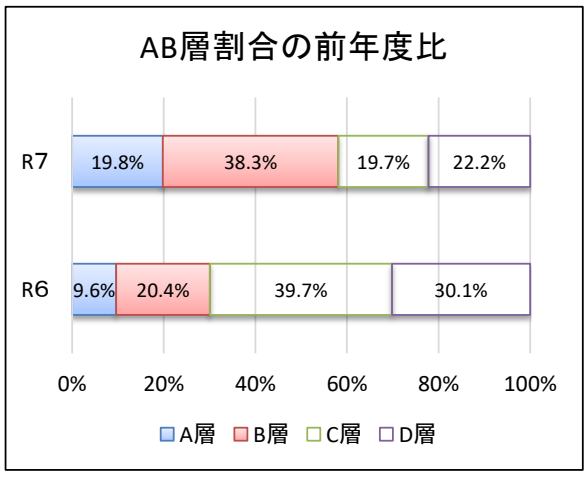
四分位における割合（都全体の四分位による）

上位 ←→ 下位

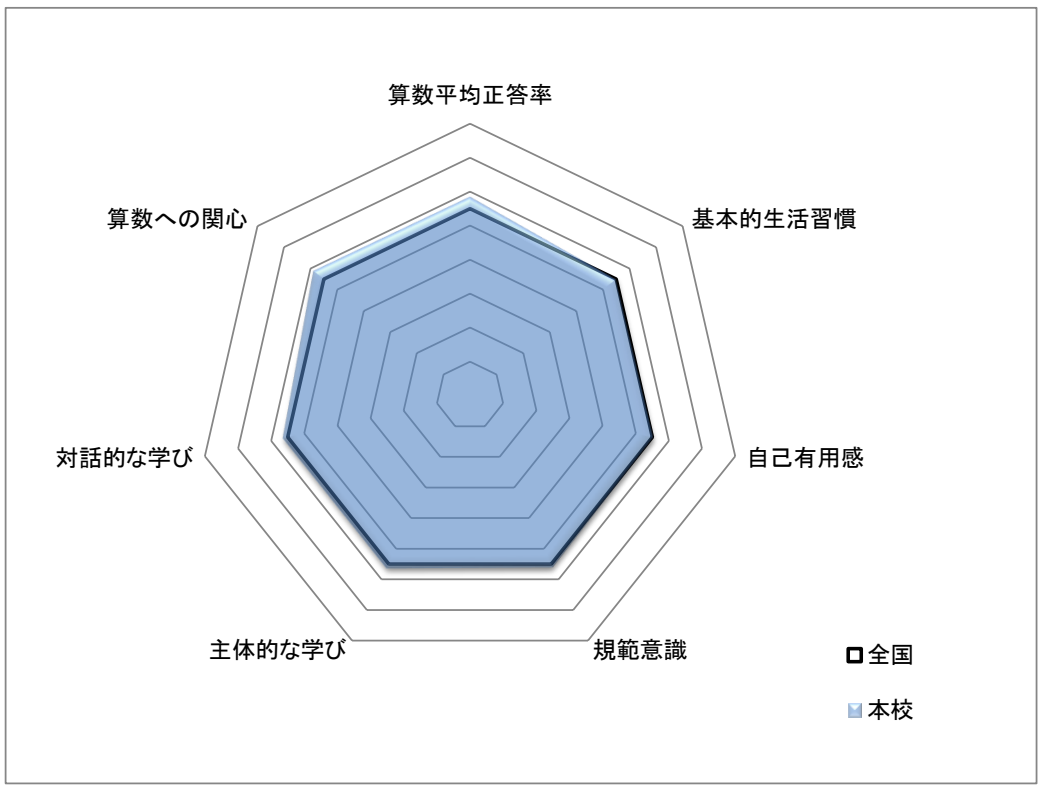
算　数	A層	B層	C層	D層
	14～16問	11～13問	7～10問	0～6問
鹿骨東小学校	19.8%	38.3%	19.7%	22.2%
江戸川区（区立）	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都（公立）	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国（公立）	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・基本的生活習慣、自己有用感、規範意識、主体的な学び、対話的な学び、算数への関心について、どの項目も全国平均とほぼ同等か上回っている。特に、算数への関心が高い。低学年の頃から九九マスターの取組等、基礎学力の定着を積み重ねた成果が表れている。

《家庭・地域への働きかけ》

・SDGs学習、ふるさと学習、学習発表会等を通して、グラフや資料を読み解く力や分かったことや考えをまとめる力、学んだことを伝える力が育ってきている。引き続き、カリキュラムマネジメントを推進し、家庭や地域の協力も得ながら、算数の基礎学力及び活用力の育成に取り組んでいく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
　令和6年度に比べて、令和7年度は、A層は10.2ポイント上昇、B層17.9ポイント上昇と、ともに大きく上回った。特に、B層が飛躍的に伸びている。6年間の積み重ねが功を奏している。C層は20ポイント下降、D層は7.9ポイント下降と大きく減少している。特にC層の減少が著しい。この学年の特徴として、低学年、中学年の頃から授業規律が確立しており、落ち着いて学習に取り組む雰囲気が醸成されていたこと、ICTを活用した算数アプリの活用等、基礎的な学習に繰り返し取り組む児童が多く、家庭学習が毎日ほとんど全員提出される等、家庭の協力体制があり学習環境が整っていたことが挙げられる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・校内OJTとして、年3回の自己申告授業を互いに参観しあったり、日頃の授業を参観しあって意見を交流する等、様々組み合わせでOJTに取り組んだ。
・ICT活用について、情報リーダーを中心として校内研究会を開いたり、ICT支援員に授業支援をしてもらったりして、活性化に務めた。
・江戸川区算数スタンダードを徹底し、板書やノート指導の形式を統一したことで、まとめや適用問題に取り組む時間が確保できた。

・基礎学力の保障

・九九マスターの取組として、異学年交流の中で、九九を習得したかどうか聞き合い、暗唱できたらシールやバッチで賞賛することによって、確実に習得することができた。
・算数習熟アプリを活用し、家庭学習で適用問題をたくさん解く機会を設けた。
・ぐんぐん教室において、意欲的な学びを賞賛し、基礎学力の定着を図った。

・学習習慣の確立

・年3回の家庭学習週間でミライシードのドリルパークを活用した反復学習に取り組ませ、家庭学習の習慣を定着させた。
・家庭の協力を得て、家庭学習に毎日取り組み、きちんと提出する習慣が確立できた。

・AB層の育成

・外部の講師を呼び、主に記述式の回答の仕方について、ポイントを教えていただいた。
・多様な考え方ができる問題について、解き方を友達に説明する場面を多く設けた。